

特定非営利活動法人 Joint Joy 2025 年度の事業報告書

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 Joint Joy

1 事業の成果

総括

昨年度 1 期工事終了後、環境整備を進める中での二期工事開始と慌しく過ぎました。2025 年 12 月末によく全工事が完了したものの、仕上がったロッカー室の床から水漏れが起こるなど、建物の老朽による根本的なアクシデントもあり、2026 年度が始まる直前まで工事が続きました。

福祉サービスと収益事業をとめずに工事と環境整備を続ける日々の中で、変わる作業手順や動線に不安な利用者の方もおられたと思いますが、大きな混乱もなく粛々と日々の作業を進めておられました。またそのような状態になるよう職員はそれぞれのポジションから工夫を加え支援を継続し、ご家庭では様子の共有やストレスの緩和を進めていただき、改装業者の方々は事業に差し支えないように配慮しながら工事を進めてくださるなど、多くのご協力のおかげで無事に 1 年を過ごすことができました。

福祉サービス・収益事業

3 月末現在 28 名の登録、1 日平均 17.6 名の方が通所されています。重複の方もおられますが大きく障がい区別でみると精神障害 7 名、身体障害 5 名、知的障害 1 6 名となっており、ここ 2、3 年の傾向として毎日終日通所する方より、週数日数時間の通所でお仕事をおこないたいという利用者の方が多くなっています。

個々の支援については、計画相談先や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などご本人の状況を共有しつつ、支援が円滑かつ有効にはたらき日々健やかに過ごしていただけるよう連携を大切にしました。また月 2 回の看護師による健康チェックを継続、そのおりに利用者の方が悩みを相談されることもあり、共有を進め支援につなげることも多くありました。

就労支援としての作業については食品や小物づくり（組紐製品）に関わる全ての工程、生産、製造、販売を継続しました。それぞれが得意とされている内容を丁寧に進めることを大切にしながら、スキルの向上と併せて考える力を伸ばしていただけるよう支援を進めました。今年度も一般就労を希望される方がおらず、定着支援につながる機会がありませんでした。

収益事業としての売り上げは前年とほぼ同じ横ばいでしたが、平均工賃が 39,892 円と昨年度より約 3,000 円上げることができました。物価の上昇が大きいのかかり、年度途中ですべての商品の値上げをしなければならぬ状況がありましたが、お客様のご協力と畑の収穫野菜が季節に合わせて順次使用できるよう生産に励んでくれたこと、製造者がそれをうまく活用し破棄がないよう工夫してくれたことなどが基盤となり、利用者の工賃が上昇することに繋がったと考えられます。食中毒などを防ぐよう声を掛け合いながら衛生に皆で気をつけ、食品製造販売業を継続できたことで、利用者の工賃を守り日々の就労支援につなげることができました。

取り組みとしては「労働」「余暇活動」「体づくり」という 3 つの視点をおき、就労支援としての「労働」とは別にレクリエーションを「余暇活動」として取り組みました。回を重ねることで参加者も増え楽しみにしていただけるようになってきました。また 2 年毎の宿泊レクリエーションの年でもあり、無事に行うことができました。「体づくり」については月 1 度、体操の時間として体操の先生に来ていただき、体の基礎づくりを内容として継続しています。3 年目になる今年は、当初ジャンプができなかった方が片足とびができるようになるなど成果が少しずつ見えてきました。

人材育成

職員補充がうまく進まない中職員研修の時間や準備を整えていくことが難しくなり、年度途中から職員研修については、動画による研修制度を採り入れました。必須研修はもちろんですが、法人運営の基礎や対人関係についてのマナー、障害特性についてなど、少し視野を広めて学ぶ機会を作ることができています。それぞれが感想記入するシステムということもあり、それを確認することで職員の思いを知る機会にもつながっています。福祉関係ではサービス管理責任者に関わる研修、障がい者差別解消法講座などの研修に参加しています。

地域との連携

福祉関係として・八幡市障がい者地域生活支援協議会における就労部会メンバーとして活動、商工関係として、八幡市商工会、観光協会の活動に参加、商工会女性部での事業所訪問では5名の方に見学していただきました。利用者の支援に必要な関係機関、八幡市社会福祉協議会、市役所各機関、病院や地域包括センター、訪問看護事業所、訪問介護事業所、各支援学校などと必要に応じて連携させていただきました。

収益事業では地域企業や各種団体からの注文を頂き、地域の方に大切にさせていただく機会を継続することができ、近隣の団地を中心に孤立しがちな高齢者宅への弁当配達についてもご提供できる数が現状では限界に達していますが、見守りを兼ねつつ「食」から元気なまちをつくる取り組みを継続しました。

求人については「福祉のお仕事相談会」への参加を行うなど、事業所を知っていただけるように努めました。

事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数
① 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業の運営	○福祉サービス事業就労訓練の継続を行いました。 ・自主製品の製造販売 おむすび 通年10～15種 惣菜弁当 日替わりにて1種類 焼き菓子 通年ケーキ10～15種 クッキー12～14種 生ケーキ 常時3～5種 和菓子 常時2～3種 くみひも (ストラップ 靴ひも キーホルダー 眼鏡ストラップ) ・喫茶運営 ・農作物の管理収穫を行い、惣菜弁当や菓子の原材料に使用しました。収穫が多い時は、店頭にて販売しました。 ミニトマト オクラ トウガラシ ピーマン かぼちゃ 玉ねぎ じゃが芋 さつま芋 豆 ゴーヤ 等 ・自主製品の販売先 自店舗 JA四季彩館 「精神科医院サロン内 インターネットによる販売 「スイートハートプロジェクト」への参加	(実施日時) 通年 (場所) 八幡市男山竹園 2-1A03-110 " 2-1A03-105 八幡市岩田 畑 八幡市八幡大芝 畑 (人数) 2026.3月末現在 常勤職員 7名 非常勤 2名 ボランティア4名 利用者 28名 (登録)	身体・知的・精神の手帳を持っている方と 医師の診断によりサービス提供が受けられる方 地域の住民など

	・定期的なアセスメントとモニタリング及び日常の支援から、個々の目的を明確にしながら個別支援計画を作成し、お一人お一人の目的に合わせた就労訓練ができるように進めました。 ・工賃の支払いについて、評価方式を継続し個々の目的を達成していくためのやりがいにつなげていきました。 2025 年度支払総額 8,233,640 円、工賃をお支払いし、平均工賃額は 39,892 円となりました。 ・レクレーションを各月で行いました 7～8 月 かき氷を食べに行きましょう 10 月 まつりだワッショイ！みんなで楽しもう 7 月 宇治植物園行 12 月 1 泊旅行 1 日目 ブルーメの丘 雄琴温泉 2 日目 琵琶湖博物館 ミシガンクルーズ忘年会 1 月 新年会 2 月 みんなでお鍋を食べよう& バレンタインケーキを作ろう 3 月 カラオケ ・専門家を招いての体操教室開催 ○職員会議 43 回開催 法人、福祉事業、収益事業、人材育成研修、各ケース検討など運営に必要な内容を会議の中で検討、共有、実施し進めました。	毎年 5 月モニタリング 6 月計画作成 11 月中間モニタリング 12 月中間モニタリング作成 毎年 5～6 月 工賃査定 7 月 新金額にて計算 毎月第 4 土曜 12 回開催	利用者 28 名 その家族 常勤職員
② 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく相談支援事業の運営	○指定計画相談事業を継続しました。 就労訓練を利用する方を中心に登録され、日中活動をベースに利用計画を作成しモニタリングを行いました ○就労定着支援事業 ○その他	登録者 12 名 利用者 12 名 登録者 0 名 利用者 0 名	身体・知的・精神の手帳を持っている方と医師の診断によりサービス提供が受けられる方
③ 地域と連携しながら障がい者の社会参加や自立支援を促進する事業 ④ 地域住民との交流事業 ⑤ 情報交換とネットワーク構築	・竹園商店街会員の継続と協力。 ・八幡市自立支援協議会内、就労支援部会に参加。 ・ ” 全体会に参加 ・八幡市観光協会、八幡市商工会（商業部・女性部）の会員を継続し、情報の収集と協力をすすめました。 ・惣菜弁当の戸別配達…男山団地 A・B・C・D 棟中心に惣菜弁当の個別配達時の見守りを兼ねながら行いました。また、ルート上で可能な範囲で配達先を広げています。 ・イベント販売については感染状況をみながら参加しました。 生涯学習センター開校式 5/17 洛和会グループホーム	通年 部会 各招集日 年 2 回 不定期 弁当事業 毎週月～金	身体・知的・精神の手帳を持っている方と医師の診断によりサービス提供が受けられる方 地域住民 利用者

	10/11 医療法人社団医聖会八幡ふれあいマルシェ 11/8 八幡市民文化祭 10/25 生涯学習フェスティバル 11/15 就労合同フェア 11/25 2/17 商工会ロゲイニング 11/29 ささえ人イベント協力 11/29 福祉の集い 3/20 観光協会「さくらまつり」協力 3/28～4/5 研究協力 同志社大学大学院総合政策科学研究科 「障がい者就労支援事業所における組織の特性が職員のワークエンゲイジメントに及ぼす影響」 8月		職員 地域住民
⑥ 社会福祉の増進を図るための啓発事業及び人財育成事業	○啓発など ・出店などによりハンデのある方に対する就労について啓発活動を行いました。 ・事業内容をホームページ、フェイスブックにより開示しました。 ・お弁当チラシ「J・J P o P」にて毎月近況報告を発信しました。 ・ニュースレター「Joy たより」の発行。 ○人材育成、地域取り組みなど ・所内研修 ○安全運転確認勉強会 ○感染症・食中毒まん延防止 - 感染症対策の基礎知識 - 食中毒の原因 ○虐待、身体拘束勉強会 - 障がい者虐待防止法 障がい者虐待とは 身体拘束とは ○業務継続関係 避難訓練 - 自然災害 BCP の基礎知識 ○その他 - 就労選択支援の基本と目的 プロセス 多職種連携 - 介護職における身だしなみ 寄り添う会話とは - 信頼関係を築くための接し方の基本 - 基礎支援とチーム連携 相手の安心をつくる配慮 - 接遇マナー物品を渡す受け取る時のマナー - 倫理の基礎と重要性 特性に応じた支援と関り - 自閉症の基本的な理解と特性 ・外部研修 - 頼れるビジネスアシスタント - 障がい者差別解消法講座 - 障がい者行動制限の廃止を考える研修会 ・合同求人 - 福祉のお仕事相談会	通年 毎月 2回 動画研修含む 7月 8月9月12月 12月 9月 9月3月 10月 11月 1月 1月 2月 2月 3月 3月 7月 2月 3月 8月	地域住民 企業 利用者 法人関係者
⑦ その他、法人の目的を達成するために必要な事業	作業場の拡張事業継続	2026.3月終了	